

平成22年度 玄海町立有浦中学校 学校評価結果

平成23年3月

1 学校教育目標

豊かな心・活きた学力・たくましい身体をもつ生徒の育成

2 学校経営ビジョン

めざす学校像	・信頼関係を基盤とした、温かな人間関係のある学校 ・楽しい中にも厳しさのある活気に満ちた学校	・基礎基本を身につけさせ、学力向上を目指す学校 ・保護者や地域から信頼される学校
めざす生徒像	・自己実現をめざして、主体的に行動する生徒 ・自他の尊厳を認め、思いやり、やさしさを持つ生徒	・基礎基本を身につけ、意欲的に学ぶ生徒 ・規範意識を持ち自律できる生徒
めざす教師像	・教師としての使命感にあふれ、優れた指導力と実践力をもつ教師 ・教育愛に満ち、生徒とともに行動する人間性豊かな教師 ・豊かな見識、専門的な知識を持ち、研鑽に励む教師	

3 本年度の重点目標

- 豊かな心
(温かな心もち、あいさつができる)
- 学力の向上
(授業に真剣に取り組み、家庭学習の習慣を身につける)
- たくましい身体づくり
(基本的な生活習慣を身につけ、部活動に熱心に取り組む)

4 前年度の成果と課題

・学習指導、生徒指導で様々な工夫や取り組みを通し、学校生活の多くの部分で向上傾向にある。
・学習面では授業へのまじめな取り組みは見られるが、学習意欲の高揚や家庭学習時間確保など、更なる取り組みが必要である。
・保護者及び住民の学校行事への参加は多くなっているが、授業参観や保護者会などは取り組みへの工夫の必要がある。
・不登校傾向の生徒への対応については大きな前進が見られたが、指導力の向上、校内の支援体制の構築が必要である。

共通評価項目 独自評価項目

評価・・・A:十分達成している、B:概ね達成している、C:やや不十分である、D:不十分である

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	学校経営方針	教育目標の周知を図る	・教職員、生徒、保護者への周知を図り、周知率90%以上にする。	C ・保護者への周知率は90%と目標を達成できたが、生徒については「ことば」としての周知率が低い。あいさつ、授業態度、基本的な生活等、学校生活の様々な場面での指導できた。	・保護者会や全校朝会、学校だよりなど機会あるごとに知らせ、周知徹底を図る。 ・各教室や廊下などに掲示をする。	学校の経営目標を保護者には十分周知できた。 生徒の認知度が低いので、目標を校内に掲示すること、日常の活動の中でより具体化して取り組む必要がある。
	教職員の資質の向上	指導力を向上させる研修の充実	・校内研究会において、全員の公開授業を実施する。 ・教育センター、教科等研修会、研究発表会へ2回以上参加する。	B ・授業に関して生徒、保護者ともに90%がプラス評価だが、職員は70%代である。校外研修は参加者に偏りがあつた。研究授業については計画通り実施できなかった。	・校内研究の取り組みを工夫し、全員年1回以上の授業研究会を行う。 ・教育センター研、教科等研究会への参加を促す。	学習指導や生徒指導に関しての取り組みは生徒と保護者に認められている。 校内・校外研修を計画的に進めて、内容の充実を図り、資質を高める。
	開かれた学校づくり	学校便り、ホームページ(HP)での情報発信 保護者・地域の方の参加促進	・月2回以上の学校便りの発行、HPの更新を行う。 ・参観授業及び体育大会、文化発表会等の学校行事への参加を500名以上にする。	A ・保護者のほとんどがプラス評価だが、職員は半数程度であり、参観授業・保護者会の参加者不足と感じている。行事へはほとんどの保護者の参加が見られる。学校便り発行2回はほぼ達成できた。HP更新の回数が少なかった。	・学校だよりの月2回以上の発行。 ・保護者参加の行事を組み入れる。	学校便りやHPを通して学校の様子を伝えることができた。保護者参加の行事に関する参加率は高い。 授業参観や懇談会、学級だより等で双方向の関係づくりを図ること、行事以外の参観授業や懇談会への参加率を高める手だてが必要である。
	危機管理体制の整備	生徒の安全を守る取り組み 危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルをもとに、教職員の危機意識を高める。 ・訓練を通し、生徒の危機回避意識を高める。	A 職員・生徒・保護者共に80%前後がプラス評価である。生徒の事故等もなかった。避難訓練、講話等は計画通り実施できた。	・避難訓練、交通安全、薬物乱用防止などの訓練、講話を年に3回以上実施する。	防犯教室をはじめ、警察や薬剤士と連携した取組により、生徒の意識を高めることができた。安全点検を定期的に行い、事故を未然に防ぐことができた。 いろいろなケースに対応できるよう職員の危機管理意識と生徒の危機回避意識の継続化を図る。
教育活動	学力向上	個に応じた指導、わかる授業に向けた指導方法の改善による学力向上	・全国、県の学習状況調査において、前年度より3ポイント上げる。 ・アンケートにおける「授業がわかる」の回答を80%以上とする。	B 生徒の85%が授業が分かりやすいと答え、保護者も95%がプラス評価をしている。しかし、学習状況調査などでは大きく下回る学年があるなど結果には表れていない。	・個別指導の徹底を図り、個に応じた課題の与え方を工夫する。 ・ニューフレンズの活用を通し、家庭学習の習慣の定着を図る。 ・ウィークエンドテストを通し、基礎基本の定着を図る。	様々な取り組みにより一定の成果を上げることができた。家庭学習課題、週末テストの活用による家庭学習の習慣化は図られてきた。学年によって基礎基本が定着していない生徒が多く見られる。 授業における個別指導の工夫、家庭学習課題等の取組の見直しが必要である。

心の教育	道徳の時間の充実 ボランティア活動の充実	・年に1回以上、道徳の授業を保護者、地域に公開する。 ・生徒会のボランティア活動の充実を図る。	A	教育の日に全学級で道徳授業を公開した。生徒、保護者の多くが心の教育の実践ができているとしているが職員の評価は低く、更なる取り組みの必要性を感じている。	・心の教育に関する取り組みを学校だよりなどで伝え、保護者への啓発に努める。 ・学級経営、生徒会活動を通し、人に対する思いやりの心、奉仕の心を育む。	計画的な道徳の授業や授業公開、講演会など、心の教育に取り組んでいることを保護者に伝えることができた。 道徳の授業、ボランティア活動の充実を図る。
健康・体づくり	食育の推進及び部活動の奨励	・朝食摂取を95%とする。 ・部活動の出席率を90%以上とする。	B	生徒の朝食摂取率は85%を超えているが朝食に多する意識はそれほど高くない。部活動の出席率は100%に近く、熱心に取り組んでいる。	・保護者と連携し、「早寝、早起き、朝ご飯」を推進し、学期ごとにアンケートを実施する。 ・朝食の大切さ、部活動の意義について、機会あるごとに指導をする。	部活動の出席率はほぼ100%に近く、顧問も熱心に指導している。 家庭をはじめ、食に対する認識を更に高める手だてが必要である。
生徒指導	生徒指導の充実	・基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻、問題行動0をめざす。 ・生徒指導についての共通理解、共通実践を図る。	A	保護者、生徒、職員ともにほとんどがプラス評価であり、学校が決まりを守るように指導していると答えている。	・ノーチャイムでの生活を通して、時間を守ることを徹底させる。 ・毎月の生徒指導協議会で情報交換を密にし、組織で指導する。	生徒指導研修会を週1回開き、共通理解、共通実践を図ったので、落ち着いた学校の雰囲気・生徒指導を維持できた。生徒指導主事を中心にして問題に迅速に対応できた。
	教育相談の充実	・一人ひとりの生徒の理解に努め、個に応じた指導を心がける。	B	保護者、職員80%が相談にのり、アドバイスをしているがプラス面の評価をしているが、生徒のプラス評価は半数である。	・担任、副担任、SCによる教育相談を年2回以上実施し、対話を重視した指導を心がける。	定期的な教育相談とアンケートを通して、生徒の実態把握・アドバイスにつとめることができた。 生徒理解・対応について、生徒と教師の意識のずれがあるので生徒がいつでも気軽に相談できる体制を作る必要がある。今年から実施したQURの効果的な活用が課題である。
読書指導	読書指導の充実	・朝読書を充実させ、落ち着いた生活と読書力の向上を図る。 ・年間60冊(月5冊)を目標に読書に取り組みさせる。	B	国民読書年の意識付けは不足した。保護者の80%はプラス評価だが、職員、生徒は半数を超える程度に過ぎない。昨年度より図書館を利用した読書の冊数は増加している点は評価できる。	・朝読書の時間を設定し、全生徒、全職員読書の時間とする。 ・読書の意義を保護者にも伝え、家庭での読書を推進する。	朝読書により読書習慣が身につく、昼休みに図書室を利用する生徒も増えたが、年間60冊の目標は達成できなかった。 読書の意義を伝え、保護者と連携して親子読書を推進する。
特定課題	中1英数の学習改善充実	TT・少人数指導の充実	A	保護者、生徒は80%以上がプラス評価をし、「授業がわかる」と感じている。全体的にはTT、少人数指導の効果は見られる。	・TT・少人数における個別指導についての改善を図る。(教師間の打ち合わせ、生徒の声を活かす)	TTや少人数授業で実態を把握し、個に応じた指導を行い学習改善の取り組みの成果は表れている。 授業において個に応じた手立てを講じる。学年によっては習熟度指導等の対応を図る必要がある。
	特別支援教育	生徒一人ひとりのニーズに応じた支援	B	生徒・保護者・職員ともにプラス評価をしている。職員研修などで教師の理解は高まり、関係機関との連携が図れたが、効果的な対応には至っていない。	・外部講師を招聘して研修会を実施し、共通理解・共通実践へと結びつける。 ・個々の支援計画に基づき、一人ひとりに応じた支援を行う。	地域の関係機関、スクールカウンセラーと連携をとりながら対応を図れた。 支援を必要とする生徒の実態把握をすすめ、学校全体として組織的に具体的な対応を組織的な対応を図る。

6 総合評価

保護者はほとんどの項目について80%以上の肯定的評価をしていることから、本校の教育活動の成果を昨年同様認めてもらっていると感じる。生徒については「学校教育目標の認識」「教育相談の充実」について低い評価となっている。本年度の学校目標として掲げた「心の教育」「学力向上」「健康・体づくり」についてはおおむね目標を達成できた。しかし、学力向上については、学年ごとに考えた場合、基礎基本の定着、家庭学習の習慣化など、指導の効果が上がっていない学年もあり、更に指導方法の工夫が必要である。また、健康・体づくりについての生徒の朝食摂取率が低いことから、個々の具体的な目標面では反省すべき点も多く見られる。また、全体的に職員が厳しい評価をしている点については、もっと高い目標をもち、改善を図りたいとの思いの表れであると感じる。不登校傾向の生徒への対応、特別な配慮を要する生徒への指導については、職員の研修を深めたこと、関係機関との連携を図るなど一定の成果を上げることができた。

7 来年度の改善策

重点目標として「心の教育」「学力向上」「健康・体づくり」と知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指していきたい。特に「C」評価とした「教育目標の周知徹底」「教育相談の充実(生徒理解)」については重点的に取り組みたいと考える。学習上の根本的な課題である生徒の学習への目的意識や意欲を高める手だてについては、教科指導、特別活動などの多面的な手立てを講じる必要があり、このことを基盤に学力向上に取り組む必要がある。不登校の生徒や支援を必要とする生徒については、関係機関との連携や保護者との話し合いを深めて、より具体的な方策に取り組んでいく。